

## 知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

### 1 団体名

東京都下水道サービス（株）

### 2 実施日時

令和元年7月18日（木） 13時46分～14時01分

### 3 出席者

- ・団体側出席者：渡辺社長、熊谷専務、久我総務部長（下水道局）
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長、  
小林行政改革推進部長

### 4 議事概要

#### ○小池知事

更なる維持管理の効率化にむけて、ICTやAIの活用についてはいかがか。

#### ○渡辺社長

下水道光ファイバーネットワークは、都内に890キロメートル張り巡らされ、100箇所超の下水道拠点施設を結んでいる。

これまでベテラン職員が経験に基づいて情報を整理し、運転管理でポンプの制御をしていた。今後は、それらの経験値をAIに学習させ、効率的な運用を支援するシステムを作っていきたいと思う。

下水道システム全体では、他にもAIやICT、場合によってはIoT、これらを活用できる部分があるので、既に調査を始めており、今年度中にメニュー出しをして、次のステップに進んでいきたいと考えている。

#### ○小池知事

世界的に見て、下水道管理や水管理をAIで制御しているところはあるか。

#### ○渡辺社長

AIでコントロールしているところは、おそらくないと思う。車の自動運転と異なり、下水道施設の制御は幹線やポンプなど、諸条件が一つ一つ違ってくる。

○小池知事

下水道管理を担う人たちがいわゆるベテランと言われるくらいまで育つには、どれくらいの年月がかかるのか。

○渡辺社長

運転管理に自信を持てるようになるには、10年ぐらい経験をしないといけない。ポンプ運転に少しでも誤りがあると、都民の皆さんの浸水被害につながることもあるため、かなり慎重に対応せざるを得ない。

○武市財務局長

東京以外の事業展開もされているが、業務全体として、東京以外の割合はどれぐらいか。

○渡辺社長

割合については、収入で見るか、業務従事人員で見るかなどはあるが、一時に比べて、かなり拡大してきているのは間違いない。

○遠藤総務局長

下水道自体は、今までずっと区部全域に広げてきて、50ミリ対応、75ミリ対応と、拡大の歴史をたどってきた。将来的に区部の人口が縮小してくると、下水道事業そのものを維持していける自治体が少なくなり、人手に代わる代替技術も必要になってくると思うが、事業としてその辺りはまだ視野に入っていないか。

○渡辺社長

下水道は自然流下方式で、各家庭から直接水を受け取らないといけない。このため、管路廃止については、蜂の巣状に空地ができたからといって、その下水道管全体を止めるわけにいかない。ただ、水再生センターに流入する水量が減ってくるとすれば、その処理の仕方も効率化を図っていけると思うが、現実には言われるほど急激に水量は変化していない。